

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-305138

(P2005-305138A)

(43) 公開日 平成17年11月4日(2005.11.4)

(51) Int.Cl.⁷

A47G 9/02

F I

A47G 9/02

K

テーマコード (参考)

3B102

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2005-79026 (P2005-79026)
 (22) 出願日 平成17年3月18日 (2005.3.18)
 (31) 優先権主張番号 特願2004-90714 (P2004-90714)
 (32) 優先日 平成16年3月26日 (2004.3.26)
 (33) 優先権主張国 日本国 (JP)

(71) 出願人 592038731
 有限会社シンボリックアトリー
 北海道札幌市中央区南16条西5丁目3番
 1-102
 (72) 発明者 似鳥 彰良
 北海道札幌市中央区南11条西6丁目1番
 7-301
 Fターム(参考) 3B102 BA19

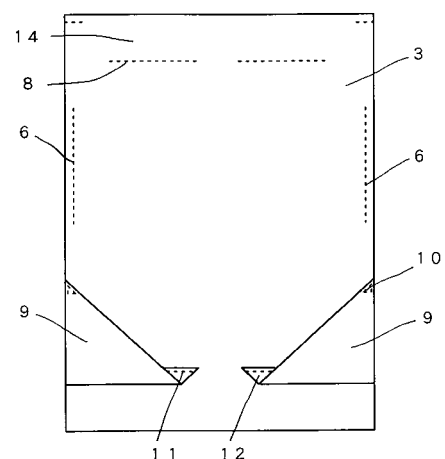
(54) 【発明の名称】 上側寝具用包布

(57) 【要約】

【課題】 就寝時の寝返りによって上側寝具がずれてベッドから落ちたり、喚起交換による方熱を防止することができ、洗濯におけるロールアイロン掛けにおいて皺の入りにくい上側寝具用包布を提供する。

【解決手段】 下側寝具の隅部が包布の足側の辺から15～30cmの位置にくるように挿入する下側受け部を寝具の足側の左右に設けられ、下側寝具受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さが、縫着間の包布本体の縦方向の長さより長い上側寝具用の包布。

【選択図】 図6



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

下側寝具の隅部を挿入する下側受け部を寝具の足側の左右に設けた上側寝具用の包布であって、下側寝具の隅部が該包布の足側の辺から 15～30 cm の位置にくるように下側寝具受け部が設けられていることを特徴とする上側寝具用包布。

【請求項 2】

下側寝具受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さが、縫着間の包布本体の縦方向の長さより長いことを特徴とする請求項 1 記載の上側寝具用包布。

【請求項 3】

長方形に裁断した生地を長手方向に折り返して両縁を縫着し、足方向に開口した上側寝具の収納口が形成されている包布である請求項 1 または請求項 2 記載の上側寝具用包布。 10

【請求項 4】

長方形に裁断した生地を長手方向に折り返して両縁を縫着し、足方向に開口した上側寝具の収納口が形成されている包布であって、長手方向の折り返し部から 10～50 cm 離れた位置で折り返し辺と平行に表裏の生地が縫着されていることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 記載の上側寝具用包布。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、掛布団、毛布、タオルケット等の上側寝具と敷布団やマットレスベッド等の下側寝具を組合せた状態に保持して一体的に使用することができるようにした上側寝具用包布に関するものである。 20

【背景技術】

【0002】

従来から上側寝具としての掛布団や下側寝具としての敷布団には袋状の包布に入れて使用してきた。この包布を洗濯するための交換作業は面倒な作業である。特に病院や療養施設では肌に接触する寝具は全て包布で包んで使用して、これらの包布は一定期間毎に洗濯することが義務付けられているので、洗濯の度の包布の交換作業に費やす労力は多大なものとなっている。

【0003】

また、従来の重い布団では床ずれの原因になり、更に寝返りが打てないことによって床ずれの原因となってしまうため、最近では羽毛布団のように軽量な上側寝具を用いることも多くなってきて、睡眠中の寝返りの度に上側寝具がずれて体を覆わなくなることや、足などを動かすと喚起交換による放熱がされてしまい保温性が損なわれ、ベッドを使用している場合にはベッドから上側寝具が落ちてしまうこともある。特に病院や療養施設で使用されているベッドは一般には狭く、通常の掛布団でも寝返りによりベッドからおちてしまうことも多い。 30

【0004】

そこで本発明者は、特開平 11-178865 号や特開 2000-262377 号にて、長方形に裁断した生地を全長の $1/3 \sim 1/4$ の位置で折り返して、両縁を縫着して上側寝具の挿入口を形成して、一方の両角隅を裏側に直角三角形をなすように折り返して直角隅を縫着することにより下側寝具の両隅部を挿入する三角形袋状の下側寝具受部を形成した包布を提案した。これらの包布を病院のベッド用の上側寝具に用いた場合、包布の交換作業は非常に簡単で効果を発揮したが、洗濯における自動ロールアイロンへの投入時に、下側寝具受部の三角形の折り返し位置が安定せずにくずれたり、バイアス方向に力がかかって包布本体に縫着部分から縦方向へ無数の皺が入り、きれいにアイロン掛けすることが難しかった。縮率や耐久性、洗濯乾燥性等の面からポリエステル繊維を包布に用いた場合には、一度アイロン皺が入ってしまうと自動ロールアイロンへ入れなおしても皺取りができず、皺によって床ずれにも影響があった。 40

【特許文献 1】特開平 11-178865 号公報

【特許文献2】特開2000-262377号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明は、上記のような現状を鑑みてなされたものであり、就寝時の寝返りによって上側寝具がずれたり、ベッドから落ちたり、喚起交換により放熱することが防止でき、洗濯におけるロールアイロン掛けにおいて皺の入りにくい上側寝具用包布を提供することを課題とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0006】

10

本発明は、上記の課題を解決するものであり、

1)

下側寝具の隅部を挿入する下側受け部を寝具の足側の左右に設けた上側寝具の包布であって、下側寝具の隅部が該包布の足側の辺から15～30cmの位置にくるように下側受け部が設けられていることを特徴とする上側寝具用包布、

2)

下側受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さが、縫着間の包布本体の縦方向の長さより長いことを特徴とする上記の上側寝具用包布、

3)

長方形に裁断した生地を長手方向に折り返して両縁を縫着し、足方向に開口した上側寝具の収納口が形成されている包布である上記の上側寝具用包布 20

4)

長方形に裁断した生地を長手方向に折り返して両縁を縫着し、足方向に開口した上側寝具の収納口が形成されている包布であって、長手方向の折り返し部から10～50cm離れた位置で折り返し辺と平行に表裏の生地が縫着されている上記の上側寝具用包布を要旨とするものである。

【発明の効果】

【0007】

本発明のように、上側寝具用包布の足側の左右に下側寝具の隅部を挿入する下側寝具受け部を設けたものにしておくと、就寝中の寝返り等により上側寝具のずれや、ベッドから落ちてしまうこと、喚起交換による放熱を防止することができる。 30

【0008】

また、下側寝具受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さを、縫着間の包布本体の縦方向の長さより長くしておくこと、よりしっかりと下側寝具の隅部を挿入することができるようになり、下側寝具受け部が包布本体の縫着間の長さより短く縮むことにより生じる突っ張りが発生しないので、包布本体への突っ張りによる影響がなく、自動ロールアイロン掛けにおいても皺の発生を防止できる。

【0009】

本発明の上側寝具用包布が、長方形に裁断した生地を長手方向に折り返して両縁を縫着し、足方向に開口した上側寝具の収納口が形成されている包布である場合には、包布の交換作業が容易であり、交換数が多い病院や療養施設等においては、効率よく交換作業ができる。 40

また、上側寝具の収納口がタップシート式にしてあることで自由度が働き、体の曲線に沿うような形になるので、毛布や肌掛けを使用して隙間風を塞ぐようにしなくてもよくなる。

さらに包布の折り返し上辺に10～50cmの上側寝具を挿入しない部分を設けることによって襟元を覆い、カーテン効果により就寝時に肩口からの温まった空気を逃がさず、暖気の保持ができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

50

本発明の上側寝具用包布は、掛布団や毛布、タオルケット等の上掛けに使用する上側寝具の少なくとも肌に接触する側が直接肌に接触しないように覆うものであり、図1～図5に示すような形態のものを例示することができる。

【0011】

図1は、病院等で通常使用されている上側寝具を完全に中に収納する袋状の包布で、表側布帛2と裏側布帛の周囲を収納口4を残して縫着し、上側寝具を収納した後収納口4をファスナーやホック、紐の結び等で閉じて用いる。(図1では紐の結びで閉じた例を示している。)

【0012】

図2は、図1と同様に上側寝具を完全に中に収納する袋状の包布であって、収納口4を表側布帛2に設けた場合で、同様にファスナーやホック、紐の結びで閉じて用いる。 10

図3は、家庭用としてよく用いられている表側布帛2の中央に額縁状の開口部5を設けて掛布団の表生地の様が見える構造にした包布であり、収納口4を長辺に設けて、ファスナーやホック、紐の結びで閉じて用いる。

【0013】

図4は、長方形に裁断した生地を長手方向の1/3から1/4の部分で折り返して表側布帛2とし、重なりを縫着6した包布であって、足方向に開口した上側寝具の収納口7が形成されている包布である。この包布は、包布の交換作業が容易で効率よく作業できる。この包布において、折り返し部から10～50cm離れた位置で折り返し辺と平行に表側布帛2と裏側布帛3とを縫着8しておく、上側寝具を収納する奥の突き当たりとなり、使用中に表側布帛がまくれてずり上がったりするのを防ぐめくれ防止機能を果たすと共に、上側寝具を挿入しない上辺部14が就寝中に肩を覆い保温機能を果たすようにできる。 20

【0014】

図5は、長方形に裁断した生地を長手方向にほぼ半分に折り返して表側布帛2とした場合である。この場合、図4と同様に重なり部分の両縁を縫着してもよいが、図5に示すように両縁の半分程度縫着し、足部の残りの部分はスナップボタン等を取り付けて開閉できるようにしていくのも好ましい。このような構造にしておく、包布の交換作業がしやすくなる。

【0015】

本発明の上側寝具用包布は、該包布の裏側布帛の裏側に下側寝具受け部が形成されていることに特徴がある。この下側寝具受け部は、包布本体とは別に用意された布帛にて形成される。そして、この下側受け部は、下側寝具の隅部が該包布の足側の辺から15～30cmの位置にくるように下側受け部が設けられている。また、下側寝具受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さが、縫着間の包布本体の縦方向の長さより長いことを特徴としている。 30

【0016】

下側寝具受け部が形成されている状態の例を図6及び図7で説明する。図6は、図4に示した包布を裏面から見た図であり、図7は、図4の包布を横から見た図である。図6において、包布の裏面布帛3の裏側に直角三角形に裁断された下側寝具の受け部を形成する布帛9が縫着されている。この場合直角三角形の直角をなす一辺が包布の長辺に沿うように置かれ、鋭角頂点付近で裏面布帛3に縫着10されている。今一辺は、包布の足側の辺に平行に、包布の足側の辺から15～30cmの位置に縫着11されている。そしてこの下側寝具の受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さは、縫着間の包布本体の縦方向の長さより長くして、下側寝具の受け部12が形成されている。すなわちこの場合には、包布の長辺に沿う直角三角形の直角をなす一辺の長さは、縫着間の包布本体より長く、下側寝具の受け部を形成する布帛9には弛みができ、この弛みで、下側寝具の隅部を保持させておくと寝返りを打っても掛布団がずれたりしなくなる。下側寝具の受け部を形成する布帛9には弛みの大きさは、下側寝具の受け部を形成する布帛の縫着間の縦方向の長さ、縫着間の包布本体の縦方向の長さの差で決まるが、この差は、使用される下側寝具と 40 50

しての敷布団やマットレスの厚さに応じて決定されればよい。

【0017】

図7は、図4を横から見た図である。下側寝具の受け部を形成する布帛9は、図7で示されているように弛んだ状態に縫着され、この弛みの部分にて下側寝具の隅部を保持させる。

【0018】

本発明において、下側寝具の受け部を形成する布帛9の形状と裏面布帛3との縫着状態は、図6に例示した以外に図8～図11に示す例を挙げることができる。図8は、下側寝具の受け部を形成する布帛9の形状を、図5に示す直角三角形の頂角部をカットした形状とした例である。図9は、台形の変形形状とした例であり、図10は、図9に示す台形の変形形状とした布帛9の底辺を傾斜させカットした形状の例である。図11は、受け部を形成する布帛を台形に裁断した布帛とし、上側の縫着を包布本体の辺に沿って行った例を示す。

10

【実施例1】

【0019】

包布用に布帛として、平織の織物を幅1500mm、長さ3350mmに裁断し、その長手方向の端から1000mmのところを折り返して、折り返し部分を包布の表面布帛2とし、重なる両縁を端から縫着6し、足側に開口した下側寝具収納口7を形成させ、折り返し辺から200mmのところを折り返し辺に平行に縫着8して上側寝具の収納部の底とした上側寝具用包布を得た。この包布の裏面布帛3の裏側に、直角を成す辺の長さがそれぞれ300mmである直角二等辺三角形に裁断した綿ポプリンを、直角を成す辺の一边が裏面布帛3の長辺と平行となり、今一边が短辺と平行で足側から250mmの位置に置き、短辺と平行なる辺を縫着11し、裏面布帛3の長辺側の頂角部を50mm足側にずらして、すなわち包布の長さ方向の縫着間の差を50mmとした弛みをもたせて縫着10し、下側寝具受け部を形成して、図4、図6、図7に示す形状の本発明の上側寝具用包布を得た。

20

この包布に幅1400mm、長さ2100mmの掛布団を収納し、厚さ40mmのマットレスの足側の隅を下側寝具受け部に係合して就寝したところ、寝返りによる掛布団のずれはみられなかった。また、洗濯後のロールアイロンによるアイロン掛けにおいて、皺の発生もなく美しい仕上がりとする事ができた。

30

【図面の簡単な説明】

【0020】

【図1】本発明の包布の構造の例を示す図である。

【図2】本発明の包布の構造の例を示す図である。

【図3】本発明の包布の構造の例を示す図である。

【図4】本発明の包布の構造の例を示す図である。

【図5】本発明の包布の構造の例を示す図である。

【図6】本発明の包布の裏面の構造の例を示す図である。

【図7】本発明の包布を横から見た図である。

【図8】本発明の包布の裏面に設ける下側寝具受け部の構造の例を示す図である。

40

【図9】本発明の包布の裏面に設ける下側寝具受け部の構造の例を示す図である。

【図10】本発明の包布の裏面に設ける下側寝具受け部の構造の例を示す図である。

【図11】本発明の包布の裏面に設ける下側寝具受け部の構造の例を示す図である。

【符号の説明】

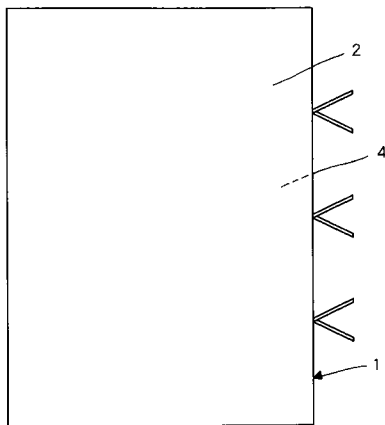
【0021】

- 1 上側寝具包布
- 2 包布の表側布帛
- 3 包布の裏側布帛
- 4 上側寝具収納口
- 5 額縁状開口部

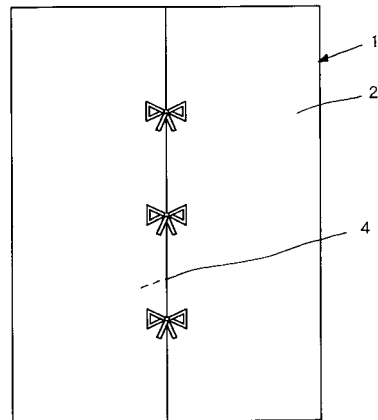
50

- 6 縫着
- 7 上側寝具収納口
- 8 縫着
- 9 下側寝具受け部用布帛
- 10 縫着
- 11 縫着
- 12 下側寝具受け部
- 13 スナップ
- 14 上辺部

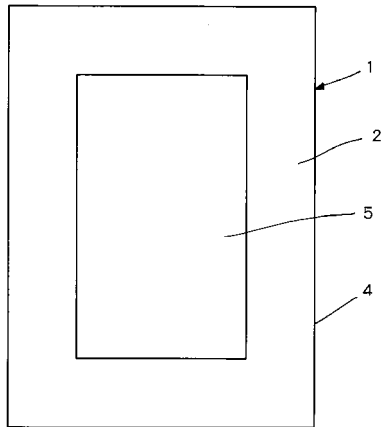
【図 1】



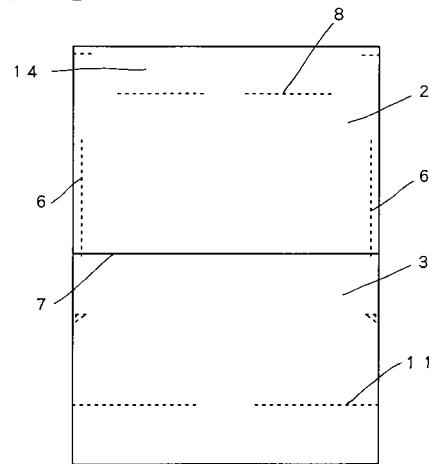
【図 2】



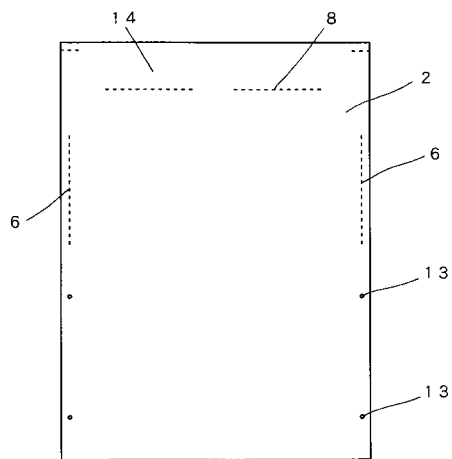
【図 3】



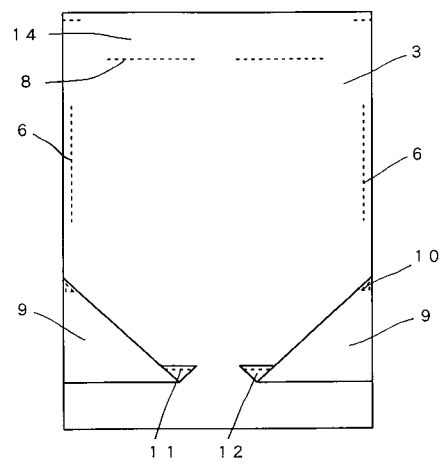
【図 4】



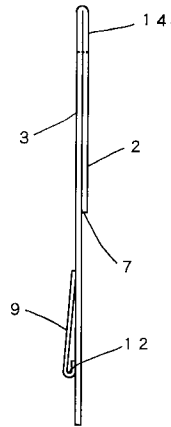
【図 5】



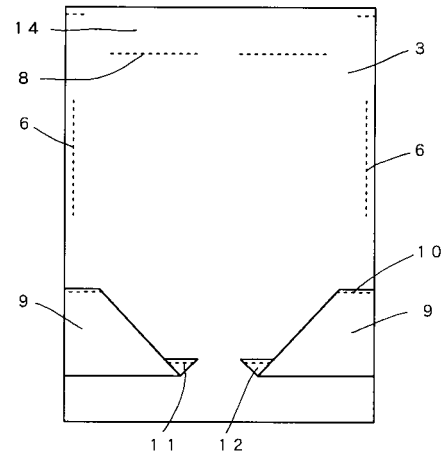
【図 6】



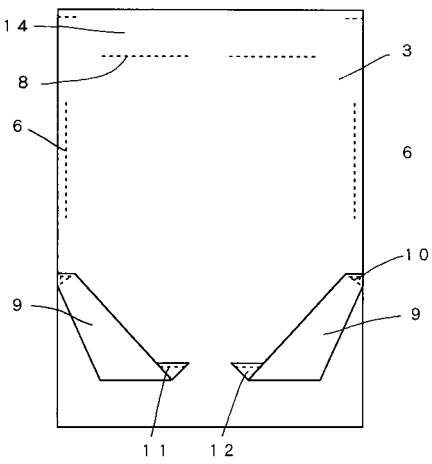
【図 7】



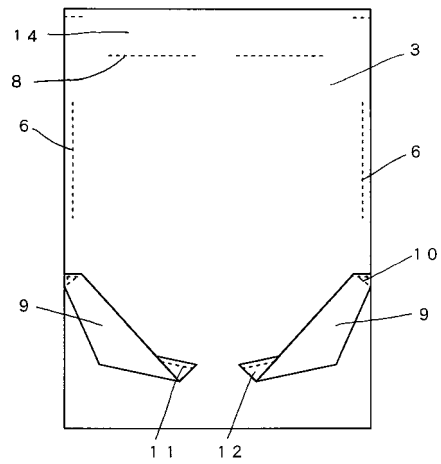
【図 8】



【図 9】



【図 10】



【図 11】

